

SGU 四国ゴルフ連盟会報 No.54

発行 / 四国ゴルフ連盟

松山市福音寺町55-1

〒790-0921

TEL 089-990-3260

FAX 089-990-3261

2014(平成26)年度 SGU主催競技開幕

四国ゴルフ連盟主催競技の開幕となる第34回四国女子アマチュアゴルフ選手権が5月21日・22日の2日間、愛媛県のサンセットヒルズカントリークラブで開催され、丹萌乃選手(西条G)が悲願の初優勝を飾った。丹選手は昨年も1日目、66の好スコアで発進したが、2日目に突然崩れ、悔しい思いをしたが、今年は見事に雪辱、涙の優勝スピーチとなった。

また、第34回四国アマチュアゴルフ選手権が6月4日～7日の4日間、徳島県のJクラシックゴルフクラブで開催され、地元徳島県の亀代順哉選手(阿南C)が10アンダーという圧倒的なスコアで初優勝を飾った。徳島県勢としては9年ぶりの優勝で、日本アマ出場権を獲得した6人のうち3人が徳島県勢(中学生の杉原選手を含む)という、地元がフィーバーした大会になった。



丹 萌乃 選手



亀代順哉 選手

丹 萌乃選手、亀代 順哉選手 とともに初優勝

2014年度 (第34回)
四国女子アマチュアゴルフ選手権競技
(6,179yd Par 72)

最終成績	+/-	所 属	合計 1R 2R
優勝 丹 萌乃 ★ -3		西 条G	141 66 75
2 安藤 京佳 ★ ±0		西 条G	144 74 70
河本 結 ★ ±0		松山国際G	144 72 72
植野 星香 ★ ±0		鮎 滝C	144 71 73
5 高橋亜可里 ★ +1		チサンC北条	145 72 73
6 大西 樹里 ★ +2		パシフィックG	146 73 73
山本 唯加 ★ +2		Kochi黒潮C	146 72 74
8 鴻上ほの花 +5		新居浜C	149 73 76
9 中野 なゆ +6		スカイベイG	150 73 77
堀 さんご +6		新琴南GC	150 72 78
11 齊賀 里緒 +7		こんびらLG	151 77 74
マックスジョイ +7		高 原G	151 75 76
吉原奈生子 +7		新琴南GC	151 74 77
白井 晶子 +7		グランディ鳴門G	151 73 78
15 公受貴久美 +8		宇和島C	152 76 76
後藤田寧々 +8		徳 島C	152 70 82
17 谷本 純菜 +9		徳 島C	153 75 78
手束 雅 +9		徳 島C	153 75 78
19 渡辺佳乃子 +10		Kochi黒潮C	154 77 77
20 高橋英里子 +11		松山シーサイドC	155 79 76
辻岡 愛理 +11		小豆島シーサイドC	155 78 77
岡田 清楓 +11		小豆島シーサイドC	155 77 78

★は日本女子アマ出場者
日本女子ミッドアマは以下の通り
白井晶子、岸田礼子、生田暁美、福島良子
村田直子、松岡まり、川西章子、藤内 忍

2014年度 (第34回)
四国アマチュアゴルフ選手権競技
(7,080yd Par 72)

最終成績	+/-	所 属	合計 1R 2R 3R 4R
優勝 亀代 順哉 ★ -10		阿 南C	278 68 67 70 73
2 大野 由真 ★ -4		SGU	284 72 74 67 71
3 杉原 悠太 ★ ±0		新琴南G	288 74 72 72 70
4 仲盛 将司 ★ +1		詫 間C	289 74 71 70 74
5 植本 健介 ★ +4		阿 南C	292 73 74 73 72
6 杉原 大河 ★ +5		グランディ鳴門G	293 74 73 72 74
横江 泰司 +5		詫 間C	293 73 75 71 74
8 西山 大広 +6		高 松C	294 76 71 78 69
遠藤 健太 +6		アルファ津田C	294 71 73 74 76
福岡 浩二 +6		愛 媛G	294 72 74 71 77
11 尾崎 竜二 +7		阿 南C	295 75 75 75 70
二宮 慎堂 +7		今 治C	295 72 72 75 76
谷本伊知郎 +7		高松グランドC	295 70 76 72 77
14 井上 智一 +8		土佐ユートピアC	296 72 76 73 75
15 廣瀬 知寿 +10		土佐ユートピアC	298 75 72 81 70
古林 敬介 +10		レオマ高原G	298 72 75 74 77
17 大藤 友理 +11		グリーンフィールG	299 77 78 74 70
増田 康平 +11		道 後G	299 77 69 76 77
19 小西 勇輝 +12		松山国際G	300 74 77 75 74
谷本 成輝 +12		アルファ津田C	300 75 77 73 75
志塚 俊平 +12		パシフィックG	300 70 73 80 77

★は日本アマ出場者

2014年度 第65回四国グランドシニア会春季競技会

中村亮一さん(土佐C)が初優勝

四国ゴルフ連盟グランドシニア会春季競技が高知県幹事岩本英起さんのお世話で4月25日グリーンフィールドゴルフ倶楽部で開催され、78名の会員が親睦を深めた。

今回から新しいハンディキャップシステム(スロープシステム)を採用し、まだ聞き慣れないハンディキャップインデックスによる大会となった。

おそらく皆さん初めての経験で、とまどった方もおられたかもしれないが、今後このハンディキャップインデックスが唯一のオフィシャルハンディとして普及していくことになろう。今大会はその記念すべき先駆けの大会となった。



中村亮一さん

【次回秋季競技会は10月28日(火)ロイヤル高松Cを予定】

2014年度 第65回 四国グランドシニア会 春季競技会

成 績 表

(Par72 男子:5,535yd 女子:5,261yd)

順位	氏名	所属	NET	GRSS
優勝	中村 亮一	土佐C	61	90
2	高橋 實	パシフィックG	65	79
3	竹田 功	土佐C	66	92
4	三野 正茂	志度C	66	76
5	濱田 忠克	パシフィックG	66	81
6	本山 康夫	グリーンフィールドG	66	77
7	下村 堯	土佐G	67	80
8	鴨井 康彦	こんびらLG	68	78
9	堀川 昌俊	鮎滝C	68	75
10	山本早恵子	グリーンフィールドG	68	89

[ベストグロス] 白鳥英二 (JクラシックG) 75

[80歳以上ベストグロス] 小野忠夫 (こんびらLG) 80

[女性ベストグロス] 飯尾文枝 (新居浜C) 86

四国グランドシニア会 女性会員募集!!

今回は女性が8名エントリーという大盛会になりましたが、女性のコースレートが非常に高く設定され、不評を買いました。

次回からは女性に優しいコース設定に配慮したいと思います。

60歳以上の女性で四国ゴルフ連盟加盟倶楽部会員であればどなたでも入会できます。入会料も無料ですので、大勢の参加をお待ちしています。

もちろん70歳以上の男性も歓迎です。

四国地区選手の活躍 (H26.4~H26.6)

○第22回日本女子シニアゴルフ選手権

三木逸子選手(土佐C)が大会6回目の優勝を飾り、自己の持つ大会最多勝利を5回から6回へと記録更新。

○第56回日本女子アマチュアゴルフ選手権

安藤京佳選手(西条G)、森田遥選手(坂出C)に加え、徳島県出身の堀琴音選手が決勝トーナメントに進出。いずれもベスト32となった。

ギ ャ ラ リ ー 席

〈日本オープンについて〉

去年の日本オープンは大変な接戦で面白かったですね。この日本オープンはどうやって始まったのでしょうか。

日本オープンの最初は昭和2年(1927年)です。優勝はアマチュアの赤星六郎氏で、彼は全米オープンの優勝者シリル・ウォーカーの指導を受け、1925年全米トップ・アマ319名参加のフランク・プレスベリー・トロフィーを獲得して帰国。彼がアメリカから帰ってきて日本に初めて近代ゴルフが生まれたのです。兄の四郎氏も同じく日本ゴルフの創始期に活躍し、兄弟揃って大変な功労者です。後年、日本のプロ協会を背負って立った安田幸吉、浅海緑朗、宮本留吉、中村兼吉は勿論、その後の戸田藤一郎も教え、彼らは六郎のことを生涯、先生と呼んでいました。その頃のトップアマの関東の鍋島直康、関西の成宮喜兵衛も教えています。翌年日本オープンを六郎氏は欠場し、六郎氏の教え子である浅海緑郎が優勝、以後は全てプロが優勝しています。その頃のプロは関東勢が絶対に強く、宮本留吉でさえ第2回日本オープンでは浅見に23打差をつけられています。当時の日本オープンは昔の全英、全米と同じように所属クラブの推薦で出場していました。関西の人たちは、関東との実力の差を悔しがり、茨木カントリ倶楽部の役員たちはその年に宮本留吉を東京の六郎氏の下に修行に出し、氏は東京倶楽部で宮本を親切に指導し、そのためブッシュ・ショットで一時期を作り、日本オープン6回優勝の偉業を達成することができ、宮本は終生、六郎氏を自分の師と仰いでいました。

その後、日本オープンは順調に伸び、プロの実力も上がり、常にプロが勝つようになりました。六郎氏の指導で実力をつけたプロたちに一度本場のプロたちと競技させ、自分たちの実力を知ることも大事だと考えた六郎氏はJGAと相談し、役員を説いてプロをアメリカに送ることを計画、昭和10年に加沼豊(保土ヶ谷倶楽部支配人、PGA書記)を団長に安田幸吉をキャプテンにして安田、中村、浅海、宮本、戸田他を101日間アメリカに送り、結果は42試合の内、25勝、13敗、4分けの好成績を挙げています。その後、日本オープンには当時外地と言われた台湾、朝鮮の選手も出場し、特に台湾の陳清水、林満福が参加し、また朝鮮から京城倶楽部の延徳春も六郎氏の指導を受け、この3氏も日本オープンで優勝しています。面白いことに全英、全米オープン共にカップが一時行方不明になっていますが日本オープンのカップも昭和16年(1941年)に延が優勝して京城に持ち帰ってから行方不明です。丁度、開戦時でその後、終戦、朝鮮戦争と混乱が続いていたので仕方ないことでしょう。写真で見ても現在のものよりもはるかに立派です。残念ですね。日本オープンも1934年、関西風水害1942-9年までは第二次世界大戦のために中止しています。また現在まで外国人選手が何度か優勝していますが、陳、林、延は当時、日本人でしたので外国人選手の中には入れていません。実は昔、世界の4大オープンにしたいという希望が日本にあったのです。それは全英オープン、全米オープン、マスターズと日本オープンですが実現できませんでした。(T.K)

シリーズ お四国随想 No.43

= 遍路の由来その2 =

『西国徧礼絵図』の四重円壇説(仏教思想から見た四国遍路の意義)

先ず頼富博士の言葉を最初に載せよう。「複合的また広大な要素を持つ四国遍路の成立要因は平安期に山岳や海辺の行場で苦練修行していた辺地修行者達が、大宇宙、大自然と一体化して強靱な肉体と優れた知力を得ようとした、その者達によって次第に形成されたと思われる」。遍路、遍土とは四国の辺地や片田舎を指すことからそれを廻っていた人達が在ったことは頷ける。最初から仏教的な意味があったのではないだろうと思われる。宝暦13年(1763)、細田周英敬豊が四国遍路絵図を刊行した。つまりガイド本で、南を上にした絵地図で中心に弘法大師と四国遍礼之序が書いてある。その序を書いた人は高野山前事務八十四翁弘範記とある。その人は高野山で検校法印を勤め明和9年89歳で親王院にて入寂した高僧である。その序文に「それ四国遍礼の密意を云わば、四国は大悲胎蔵の四重円壇に擬し幾多の仏閣は十界皆成の曼荼羅を示す」とあり、四国霊場を一つの曼荼羅にあてている。第一は十二院からなる胎蔵曼荼羅が縦四重、横三重からなるので平安期の頃から四重円壇と呼ばれているが、これを四国八十八カ所霊場と等置したことである。四国円壇と四転は全く異なったものである。第二は各礼所の仏やマンダラの仏たちが立体的には、十界世界からなるマンダラであるとする。迷界を表す地獄等の六道と聖界とされる菩薩などの四界を合計した十界を説き、しかもそれを我々の心の中に収めるのは天台教義に基づくものであるが、真言の学僧弘範も其れを採用している。江戸前期において、すでに現在の体制を作り上げ、しかも一般庶民も参加できるようになった四国遍路ではあるが、逆に現場からは教義化が要請され、主に高野山の学僧が序文や本文を書いて四国マンダラ説などを説き、いわば宗教的権威を与えることにより、四国遍路の聖性を高め、その功德の根拠を強化したのである。と書いてあるが皆さんには何のことかわかるだろうか。要は民衆の中に習慣的にできた四国遍路をいろんな人が権威をつけることにより、より一層聖性を高めるためにいろんな人、特に高野聖たちが努力したのだろう。(手島皓一)

シリーズ 倶楽部コースのご紹介

その57

錦山カントリークラブ

『お客様に“楽しい一日”を提供する。』これが我がクラブの方針です。ゴルフ場という場の提供だけではなく、当クラブに向かう道中の高揚感、クラブ内での優雅で且つ刺激的な時間など、お帰りになられた後に余韻までも感じて頂けるような“非日常”という価値を提供したいと考えております。

《当クラブの特徴》

当クラブの所在地は高知市より少し西部の高岡郡日高村。国道より10分ほど山道を登った先にあり、多くの緑と爽やかな風に包まれてプレーして頂けます。“錦山”の名の通り季節ごとに様々な色の花々が咲き誇り、中でも春の桜は我がコースの財産の一つでもございます。

《コースについて》

コースは丘陵の地形を生かした18ホールの高麗グリーン。コースの長さは平均的で飛距離があればもちろん有利ですが、それだけではなかなか攻略できません。高低差などを考慮したホール毎の組み立てがスコアに大きく影響します。また高麗グリーン特有の芝目を考慮したライン読みという楽しみを、経験を積んだキャディがお手伝いいたします。

名物ホールは16番ミドル。池を跨いだホールなのでティショットでドライバーが使いにくい。そのため2打目で飛距離と、正確さと、視界に入る池に惑わされない精神力が要求される難所です。

《レストランについて》

当クラブはレストランにも非常に注力しております。味付けやタレ・ソースは全てオリジナルで、天ぷら・カツなども衣付けから調理するなど、ほとんどが自家製メニュー。四季に合わせて年に4回メニュー変更いたします。

名物メニューは、昔からファンの多い『かも鍋』(冬)や、当クラブの敷地内で採れた『旬の山菜天ぷら』(春・秋)、近くを流れる清流仁淀川で獲れた『天然手長えびの素揚げ』(夏)など、期間限定ではございますが旬や地域を生かしたメニューがご好評頂いております。

《新しい取り組み》

平成26年4月より地域とのタイアップ企画から生まれた『日高村オムライス』は、日高村名産のシュガートマトと一緒に牛タンを5時間煮込んだデミグラスソースをたっぷりかけた新名物メニュー。これを機会にプレーヤー以外の方にもレストランを利用できるように体制を整えました。ご利用されるお客様はゴルフ場に初めて足を運んだという方がほとんどなので、ゴルフに興味を持って頂くきっかけになればと思い練習場の利用なども可能にしております。今後とも地域との交流などを基に、ゴルフ文化の裾野が広がるよう工夫をしていきたいと思っております。

最後になりますが、これからもお越し頂いた全てのお客様が素敵な一日をお過ごし頂けるよう努めて参ります。スタッフ一同、皆様のご来場心よりお待ちしております。

支配人 松岡生孝

〈事務局からのお知らせ〉

◆ジュニアゴルファーの練習環境整備

今年から日本ゴルフ協会(JGA)が、全国のゴルフ練習場のうち、ジュニア育成に理解のある練習場を「JGA指定ジュニア会員優遇練習場」として指定し、ジュニアの練習環境を向上させようという取り組みを始めました。

四国でもすでに約40ヶ所の練習場が指定を受けて下さり、受付に黄金色のカンバンを掲げています。ジュニアの皆さんのご活用を期待しています。

◆唯一のオフィシャルハンディ

今年1月から新しいハンディキャップシステムが始まったのはご存知のことと思います。これまでのオフィシャルハンディであったJGAハンディキャップはなくなり、単なるクラブハンディの位置付けとなります。

唯一のオフィシャルハンディはJGA/USGAハンディキャップシステムに基づく、ハンディキャップインデックスです。すでに四国でも5,000名余の方々がこのハンディキャップインデックスを所持しています。

四国ゴルフ連盟の競技に出る場合、原則としてこのインデックスの所持が必要です。またクラブ競技をハンディキャップインデックスで行う倶楽部も出てきています。

皆さんも是非、唯一のオフィシャルハンディであるハンディキャップインデックスをお持ち下さい。日本はおろか世界で通用するハンディキャップです。



〒781-2151 高知県高岡郡日高村下分2311-1
TEL 0889-24-5311 FAX 0889-24-7379